防災情報を正しく理解する

雨の強さと降り方

1時間の雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	地面一面に水たまりができる	
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる		ワイパーを速くしても見づらい
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる			

風の強さと吹き方

風の強さ（予報用語）	平均風速（m/s）	おおよその時速	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物	おおおその瞬間風速（m/s）
やや強い風	10以上15未満	～50km	風に向かって歩きにくくなる	樹木全体が揺れ始める	樋(とい)が揺れ始める	20
強い風	15以上20未満	～70km	風に向かって歩けなくなり転倒する人もでる	看板やトタンが外れ始める	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある	30
非常に強い風	20以上25未満	～90km	何かにつかまっていないと立っていられない	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある	40
	25以上30未満	～110km	屋外での行動は極めて危険		固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる	50
猛烈な風	30以上35未満	～125km		多くの樹木が倒れる	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある	60
	35以上40未満	～140km				
	40以上	140km～			住家で倒壊するものがある	

気象庁ホームページ「気象庁が天気予報等で用いる予報用語」の情報を基に作成

気象防災速報

気象防災速報は、顕著な現象を速報的に伝える情報で、警戒レベル相当情報やそれ以外の警報等の「対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報」を補足するものとして、その根拠を示し解説する速報性の高い情報で、府県ごとに発表します。

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況、またはその直前の予測がされた場合、「気象防災速報（線状降水帯発生）」、「気象防災速報（線状降水帯直前予測）」をそれぞれ発表します。

また、数年に一度しか起こらないような記録的な短時間の大雨を観測し、より一層の警戒を呼びかけるときには、「気象防災速報（記録的短時間大雨）」を発表します。

そのほか、積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバーストなどの激しい突風に対して注意を呼びかける「気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）」や、短時間の顕著な大雪となることが見込まれる場合に発表する「気象防災速報（短時間大雪）」があります。

警戒レベルと避難情報

警戒レベルとは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために、市町村が発令する避難情報等や気象庁等が発表する防災気象情報等の防災情報を、５段階に分けたものです。警戒レベルに応じた行動を、普段から確認しておくことが大切です。

江南市やよく立ち寄る市町村、旅行先の自治体などが作成している防災マップ（ハザードマップ）を活用して、災害のリスクを確認し、避難場所・経路を決めておきましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	防災気象情報（警戒レベル相当）
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保	緊急安全確保※1（市町村が発令）	レベル5 氾濫特別警報 レベル5 大雨特別警報 レベル5 土砂災害特別警報 レベル5 高潮特別警報 【暴風特別警報※2】
～警戒レベル４までに必ず避難～				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示（市町村が発令）	レベル4 氾濫危険警報 レベル4 大雨危険警報 レベル4 土砂災害危険警報 レベル4 高潮危険警報
3	災害のおそれあり	避難に時間のかかる要配慮者（高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児等）は、危険な場所から避難	高齢者等避難（市町村が発令）	レベル3 氾濫警報 レベル3 大雨警報 レベル3 土砂災害警報 レベル3 高潮警報 【暴風警報※2】
2	気象状況悪化	自分の避難行動を確認	レベル2 氾濫注意報 レベル2 大雨注意報 レベル2 土砂災害注意報 レベル2 高潮注意報 【強風注意報※2】	レベル2 氾濫注意報 レベル2 大雨注意報 レベル2 土砂災害注意報 レベル2 高潮注意報 【強風注意報※2】
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	早期注意情報

※1　緊急安全確保は市町村が災害の状況を確実に把握できるわけではないことから、必ず発令されるものではありません。

※2　暴風特別警報、暴風警報、強風注意報については、参考として記載しています。

５段階の警戒レベルと避難行動の関係

市町村から警戒レベル４「避難指示」や警戒レベル3「高齢者等避難」が発令された場合は、「住民がとるべき行動」に基づき、必要な避難行動をとりましょう。

また、市町村から「避難指示」や「高齢者等避難」が発令されていなくても、発表されている防災気象情報がどの警戒レベルに相当するのか確認し、危険な場所から、自ら避難の判断をしましょう。また、明るいうちに予防的避難を心がけましょう。



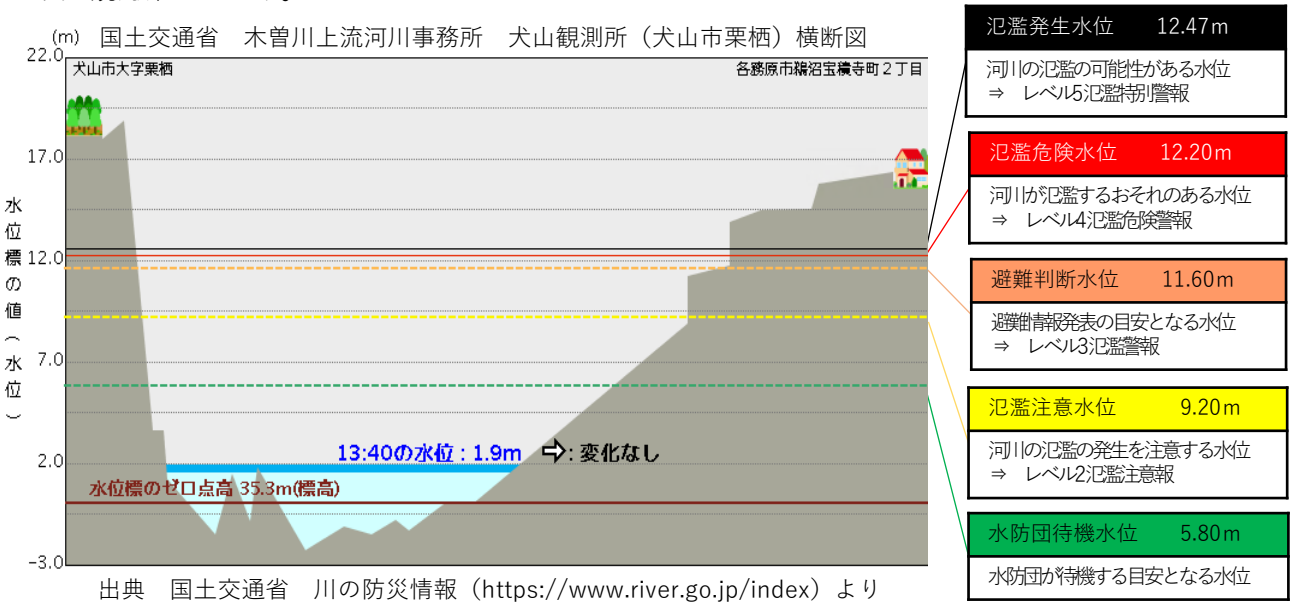
洪水と浸水について

洪水（外水氾濫）

洪水（外水氾濫）は、大雨で河川の水位が堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊することで発生します。

河川によって基準となる水位が決められており、対象となる河川の水位が上昇した場合、「レベル2氾濫注意報」、「レベル3氾濫警報」、「レベル4氾濫危険警報」、「レベル5氾濫特別警報」の防災気象情報が発表されます。

江南市では、氾濫に関する防災気象情報が発表される河川は、木曽川のみで基準となる水位を観測する観測所は、犬山の観測所となります。



出典　国土交通省　川の防災情報（https://www.river.go.jp/index）より

浸水（内水氾濫）

浸水（内水氾濫）は、大雨によって下水道管や側溝の排水が間に合わずにマンホールや側溝からあふれ出すことで発生します。

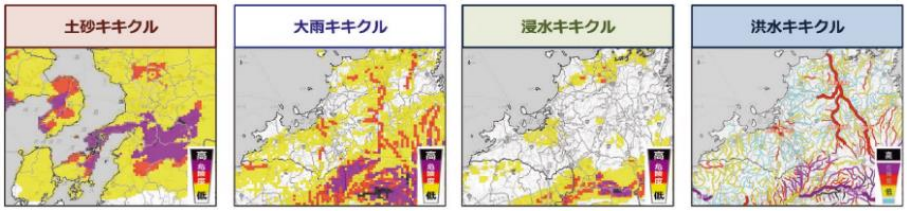
江南市域や氾濫に関する防災気象情報が発表される河川以外の河川の流域で大雨が降った場合、「レベル2大雨注意報」、「レベル3大雨警報」、「レベル4大雨危険警報」、「レベル5大雨特別警報」の防災気象情報が発表されます。

江南市では、氾濫に関する防災気象情報が発表される河川以外の河川は、新川水系青木川・五条川、日光川水系日光川、また、市外の河川ですが郷瀬川・新郷瀬川となります。

現在の川の水位や浸水の危険性を知るには？

気象庁　あなたの街の防災情報「キキクル」

「キキクル」は、土砂災害、大雨、浸水や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報で、気象庁のホームページで公開されています。



出典　気象庁　キキクル

江南市の情報
「キキクル」

国土交通省　川の防災情報

身近な河川の大雨時の水位と危険性をリアルタイムで確認できます。

観測所名	河川名	水位(m)	基準水位(m)			
			氾濫注意	避難判断	氾濫危険	氾濫発生
いぬやま 犬山	きそがわすいけい きそがわ 木曽川水系 木曽川	1.87 →	9.20	11.60	12.20	12.47

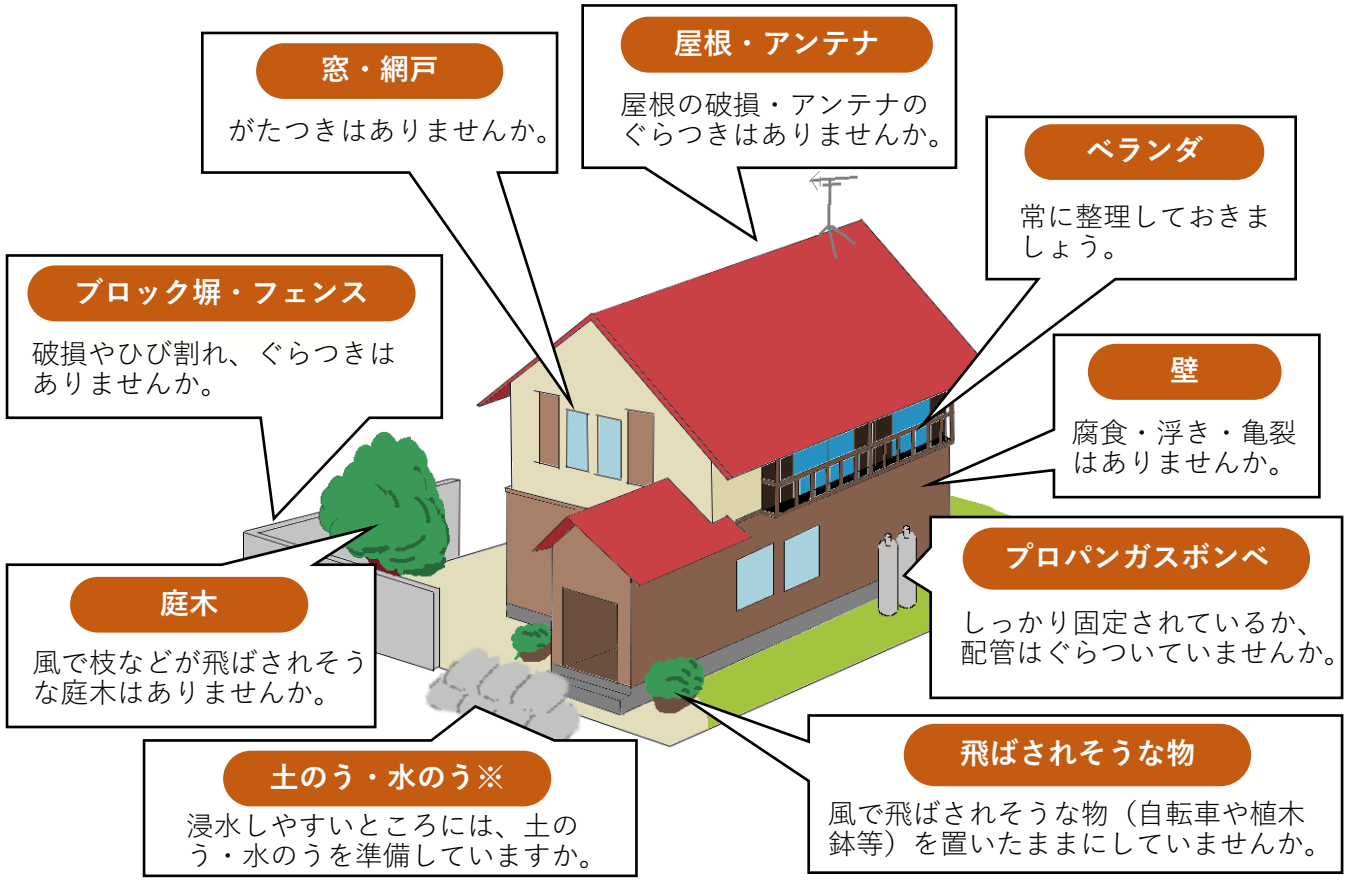
出典　国土交通省　川の防災情報

川の防災情報
江南市関係観測所の水位

風水害に備える

台風や集中豪雨では、時として家屋への浸水、河川の氾濫など様々な被害が想定されます。
日頃から安全対策と、危険が迫ったときの対策を知っておきましょう。

わが家の風水害対策チェックポイント



※水のうとは、袋に水を入れて作る災害時の簡易的な水害対策用品です。

土のうの配布について

江南市では、自宅の浸水対策に使用するための土のう（砂入り・袋のみ、上限２０個・袋）を配布しております。
必要な方は、防災安全課で申請のち、お渡しいたします（ご自宅への配送は行っておりません。また、お渡しした土のうの返却はできません）。

お問い合わせ
防災安全課
TEL
0587-50-0173

風水害への備えのポイント

① 自分のいる場所の水害リスクを確認する

ハザードマップなどで自宅や職場、学校、よく使う道などの予想される浸水の深さや避難場所を調べておきましょう。



ハザードマップは、14ページ

② 日頃から気象情報、防災情報を確認する

「最新で正確な情報」を入手できるように、さまざまな手段を準備しておきましょう。

詳しくは、25ページ



③ 家庭でできる防災対策に取り組もう

風水害に強い家づくりのために、まずは、家の外を点検しましょう。



詳しくは、このページ上部

逃げ時判断

平時に確認

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判断フロー」を確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識をもち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。



避難行動判定フロー

あなたがとるべき行動は？　必ず取り組みましょう

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害がおこる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地にお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので、自宅の２階以上での屋内安全確保または自宅の外への立ち退き避難が必要です。

屋内安全確保 → **浸水の危険があっても、次の場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。**

① 洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側にある。
② 自宅内の浸水する深さよりも高い場所（２階など）がある。
③ 浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。

立ち退き避難

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル３が出たら安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル３が出たら、市が指定している洪水避難ビルに避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル４が出たら安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル４が出たら、市が指定している洪水避難ビルに避難しましょう。

警戒レベル３や警戒レベル４がでたら、危険な場所から避難しましょう。

「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

避難先は小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

参考　内閣府「避難情報に関するガイドライン」

江南市ハザードマップ

市内を流れる河川で洪水が起こった時の浸水想定、市内で大雨が降った時の浸水想定、市内の指定避難所、地震火災避難広場、洪水避難ビルなどの情報を重ねたハザードマップをホームページで公表しております。

自らの命や家族の命を守るためには、ご自宅や学校・職場などの災害想定や、避難場所などを知っておくことが重要です。

確認できる情報

携帯電話などのGPSを使用し、現在地から指定した避難所などのルートを確認できます。

河川などの氾濫・洪水

- 木曽川洪水浸水想定区域
- 新川流域(青木川・五条川)洪水浸水想定区域
- 日光川洪水浸水想定区域
- 郷瀬川・新郷瀬川洪水浸水想定区域
  (犬山市内を流れる河川)
- 入鹿池浸水想定区域

大雨による浸水

- 内水浸水想定区域

市内の情報

- 指定避難所、地震火災避難広場、洪水避難ビルの場所
- アンダーパスの場所



江南市ハザードマップ
https://www2.city.konan.lg.jp/bousai/htdocs

水害から避難するときの注意点

浸水時の避難に注意

短時間で急激に大雨が降ると、災害発生の危険が高まります。

大雨が予想されるときは、気象情報に十分注意し、川や池などの水辺に近づかないようにしてください。

浸水が始まる前に避難

高齢者や障がいのある方は、早めに避難することが大事です。

また、暗くなる前に避難を完了させましょう。

危険箇所を避ける

アンダーパスは避けましょう。道路が冠水している場合があります。

２人以上で避難する

様々な事態が想定されますので、単独での移動は避け、複数人で、助け合いながら避難しましょう。

歩ける深さはひざ下まで

水深が腰まであったり、浅くても水の流れが速い場合は無理せず、高い場所で救助を待ちましょう。



できるだけ車で避難しない

水深が３０ｃｍに達すると車のエンジンが停止する可能性があります。

また、水深と流される速さが増すと車ごと流される危険があります。

